

【注意】

この問題はマークシート問題と記述式問題とにわかれています。

設問部分に「マ」とあるものはマークシート問題、「記」とあるものは記述式問題です。マークシート問題・記述式問題ともにそれぞれ全問が通し番号になっていますが、記述式問題は設問ごとに個別にわけた解答欄となっています。

それぞれ所定の用紙・箇所^①に解答を記してください。

第1問 次の文の傍線部の読みを送りがなを含め「ひらがな」で書きなさい。

記1 病室内に熟れた果実のような匂いがただよっている。

記2 経歴の詐称は重大な犯罪に等しい。

記3 生半可な知識をふりまわすことは避けるべきだ。

記4 現下の社会情勢の改善には綱紀肅正の徹底が必要である。

第2問 次の漢字（送りがなを含む）の読みが正しければマーク欄「1」を、誤っていればマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ1 契る〔ちぎる〕

マ2 統べる〔のべる〕

マ3 更迭〔こうそう〕

マ4 冶金〔ちきん〕

マ5 既得権〔きとくけん〕

第3問 次の文の傍線部の「漢字」表記として正しいものをひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ6 ヘンクツな人への対応には工夫を要する。

マ7 敵に対するヨウシヤない攻撃をおこなう。

マ8 患部に指定の軟膏をトフする。

〔1〕変屈	〔2〕偏屈	〔3〕片屈
〔1〕容赦	〔2〕擁赦	〔3〕要赦
〔1〕塗膚	〔2〕塗布	〔3〕塗拭

第4問 次の文の傍線部のカタカナを文意に即して「漢字」で書きなさい。各設問には異なる熟語が入ります。また、同じ解答が複数箇所^②に書いてある場合はすべて誤りとします。

記5 情報のシンギを確かめたうえで判断を下すことが必要だ。

記6 医療者としてのシンギに反するような行動はつっしみたい。

記7 この問題は委員会^③で慎重にシンギする必要がある。

第5問 次のそれぞれの語の対義語ないし類義語をあとの語群からひとつ選び、記号で答えなさい。また、対義語の場合はA、類義語の場合はBを、それぞれ区分欄に記しなさい。

- 記8 厳格
- 記9 奨励
- 記10 懲戒
- 記11 任命
- 記12 落胆

【語群】

- ア. 指示 イ. 罷免 ウ. 検挙 エ. 優遇 オ. 寛容
- カ. 発奮 キ. 上昇 ク. 処罰 ケ. 沈下 コ. 抑圧

第6問 次の慣用表現の空欄に入る最も適切な語句をあとの語群からひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ9 「 」を落とす

〔意味〕落胆して力が抜けること

- 〔1〕膝 〔2〕腰 〔3〕肩 〔4〕首

マ10 大枚を「 」

〔意味〕多額の金を使うこと

- 〔1〕はたく 〔2〕かつぐ 〔3〕くずす 〔4〕のぞく

マ11 的を「 」

〔意味〕的確にものごとの本質や要点をとらえること

- 〔1〕取る 〔2〕打つ 〔3〕突く 〔4〕射る

第7問 次の語句の意味として最も適切なものをあとの選択肢からひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ12 羽振りがいい

〔1〕裕福で経済的に余裕があること 〔2〕他人に対して愛想がいいこと

〔3〕行動が派手であること 〔4〕身のこなしが素早いこと

マ13 歓心を買う

〔1〕ものごとくに興味を持つこと 〔2〕周囲から反感をもたれること

〔3〕欲しいものを手に入れること 〔4〕他人から気に入られるよう努めること

マ 14 袂(たもと)を分かつ

〔1〕得られた利益を関係する人びとに分配すること

〔2〕不安から思いきった行動にでられないこと

〔3〕今後の行く末に関して重大な決断をすること

〔4〕行動をともにしてきた仲間とわかれること

第8問 慣用表現を用いた次の文の空欄には、それぞれ身体の部位をあらわす漢字一文字が入ります。文脈から判断してもっともふさわしい漢字一文字を記しなさい。同じ漢字を複数回使用することはできません。

記 13 一刻を争う事態を前に「 」をこまねいているわけにはいかない。

記 14 興味本位でトラブルに「 」を突っ込むことはやめるべきだ。

記 15 犯罪的な行為からさっさと「 」を洗うよう説得した。

第9問 次の傍線部の現代かなづかいが正しければマーク欄「1」を、誤っていればマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ 15 天下たいへい(泰平)

マ 16 こうり(凍り) つく

マ 17 くぎずけ(漢字表記省略) になる

マ 18 わしづかみ(漢字表記省略)

第10問 論述には、論理的に常に正しいものと、常に正しいとはかぎらないものがあります。次の文章が論理的に常に正しければマーク欄「1」を、常に正しいとはかぎらなければマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

【注】「ゆえに」の前の二つの文の叙述内容は常に正しいものであると仮定します。また、叙述の内容が社会の実態と合っているかどうかを考慮する必要はありません。

マ 19 宿泊施設にはネットの設備が必要である。ビジネスホテルは宿泊施設である。ゆえにビジネスホテルにはネットの設備が必要である。

マ 20 観光地の駅前にはレンタカーの店がある。この駅の駅前にはレンタカーの店がある。ゆえにこの駅は観光地にある。

第11問 次の二つの文の論述内容が常に同じである場合にはマーク欄「1」を、同じでない場合にはマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

【注】叙述の内容が社会の実態と合っているかどうかを考慮する必要はありません。

マ21 ① この病院では泌尿器科の手術はいつも月曜日午前中におこなわれる。

② この病院では月曜日午前中にはいつも泌尿器科の手術がおこなわれる。

マ22 ① 病院実習の際には指定のナース服を着用する必要がある。

② 病院実習以外の際には指定のナース服の着用の必要はない。

第12問 次の文と論理的に同じ内容となる文を選択肢からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

【注】叙述の内容が社会の実態と合っているかどうかを考慮する必要はありません。

マ23 A市内にあるクリニックはすべて同市内の市立病院と地域連携している。

〔1〕 A市外にあるクリニックはすべてA市内の市立病院と地域連携していない。

〔2〕 A市内の市立病院と連携していないクリニックはA市内のクリニックではない。

〔3〕 A市内の市立病院と地域連携しているクリニックはすべて同市内のものである。

〔4〕 A市内にあるクリニックが地域連携しているのは、同市内の市立病院だけである。

第13問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

患者が自分で身体を動かさないですむために看護師は存在する、と一般に考えられているようであるが、私はむしろ、患者を自分について思い煩うことから解放するために看護師が存在すべきであると言いたい。すなわち、身体を動かす努力のすべてから免れるのでは《なく》、自分自身について思い煩うことのすべてから解放されていれば、患者は良くなつていくに違いないと私は確信している。個人の家では一般にこの反対になつてしまつている。病院においては、よく整えられた組織機構の規則・規定によって、患者はこうした不安のすべてから救われており、それが患者にそのような有利な効果をもたらすのである。

思慮のない看護師は「何か私にできることがありますか？」と質問する。無作法な患者は例外なく「いや何もない」と答え、礼儀正しい患者は例外なく「いいえ何もございません」と答える。ほんとうの病人は、看護師が《何をし忘れたか》をあれこれ頭を使って考えるような苦勞をするくらいなら、ほとんど何もしてもらわないほうがまだ、というのが実状である。このような苦勞は看護師がすべき苦勞であつて、患者がすべき苦勞ではない。このような質問は、うわべは「親切」そうに見えるながら、実は看護師の側の一種の怠慢にほかならない。こうすることによって看護師は、患者に自分自身を看護するという苦勞を負わせようというわけである。

さらにまた、よくある質問に「下痢していますか？」というのがある。そしてこれまた、まさにコレラ症状の真最中といった「ひどい下痢の」ばあいでも、ちよつとした不注意による軽い下痢で、原因を取り除けばすぐにも止まるようなばあいでも、あるいは、まったく下痢などではなく、ただ便がゆるんだだけというばあいでも、まったく同じ答が返ってくる。

この種の実例をいくらか多くあげても無駄である。現在のように観察ということがほとんど啓発されていない状況のもとでは、医師は患者の家族に質問するのはいっさい《やめた》ほうがよい、と私は信じている。家族たちは医師を誤解に導くことのほうが多い。つまり、患者の実際の容態よりも重いとはのめかしたり、軽いとはのめかしたりするのである。

フロレンス・ナイチンゲール『看護覚え書（改訳第7版）』湯楨ます ほか訳（現代社）

マ24～28 次の各文が本文の内容と合っていればマーク欄「1」を、合っていない、もしくは本文に該当する記述がない場合はマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ24 思慮深い看護師であれば、相手が無作法な患者であれ礼儀正しい患者であれ、無作法な対応はしないものである。

マ25 看護師がなすべきことは、看護師に何をしてほしいかを患者に尋ねることではなく、そうした煩わしさから患者を解放することである。

マ26 下痢について患者に尋ねる際に、看護師はどのような状態の下痢であるのかを患者の応答から正確に判断しなければならない。

マ27 自分自身について思い煩うことから患者が解放されているかどうかということについては、一般家庭においても病院においても、基本的には大きな違いがない。

マ28 患者の家族に患者の状態について尋ねても、正確な観察に基づく正しい答が返ってくることはほとんどない。

第14問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

この人たちは、脳に重大な障害を受けたために心身の重い障害をもち、理解する能力が損なわれ、身体を自由に動かすことができない状態にある。年齢を重ねても「自己意識」は育っていないことが多いと考えられる。しかし、「A」は育っていないかもしれないが、「B」は育っている。

「自己」とは何か。この人たちは重い障害があるが、感覚があり、身体があり、①。

「自己」は、感覚や身体を通じて外界の影響を受け、②彼を介護し身体の維持にとりくみ、こころにはたらしきかけている他者からも大きな刺激を受ける。そこに「快」や「不快」が生じる。「自己」は、それらを感じ変化していく。「ア」な「快」や「不快」は、徐々に複雑な感覚になり、やがて感情といえる何かが育っていくであろう。この人たちは、そう

した「自己」があり、本人が意識しようがしまいが、人間として人間のなかで育ち、変化し、そこに「快」を感じ、「自己」として存在する。

脳の、そんなしょうのために、存在し変化する「自己」を意識する「自意識」は育ちにくいであろう。しかしそれは「③」ということではない。その人は人間の関係のなかで、一人の人間として「自己」が育っているのである。その「自己」の育ちによって、その人を取りまく人びとの意識も育つ。重い心身の障害のある人が「人間」として存在していることを感じ、ともに人間として生きていくという気持ちがある。

「いのち」そのものは、姿かたちがない。「いのち」は「からだ」とともにある。そして「いのち」は「こころ」をもっている。「こころ」は、「からだ」の動きや表情、声、そして言葉で「こころ」自らを表現する。人間は、七〇〇万年前と言われる出現当初から弱い生き物であったから、お互いに「協力・分配」して、「共感」しあつて自然界にはたらかかけ、「からだ」と「こころ」を發展させた。そしてこころの表現はだんだんと豊かになり、巧みになり、「ことば」も發展させてきた。そのようなけいのなかで、さらにお互いに「共感」するところが深くなった。そうしたことによって「脳」が徐々に形成され、そして今度はそのことによって「からだ」と「こころ」のはたらかが変化、「向上・發展」した。

「脳」は「からだ」や「外界」(自然環境、社会環境、人間関係)からの「刺激」(情報)を得て、「からだ」や「こころ」の反応をおこす。

「反応」は「イ」から「統一的」になった。「脳」は、「からだ」や「こころ」の「統一的器官」となり、かじようにも「中枢」と呼ばれるようになった。「中枢」には、情緒、感情、知能が發展したとされる。意識も發展し、「意識」が「意識」されるようになり、「自意識」が生まれた。

ある人びとは、この「自意識」こそが人間である証だという。だが人間形成の過程を考えたでもそうではない。人間の「自意識」や「理性」といわれるものは、人間が「からだ」を使つて、「協力」し、得たものを「分かちあう」ことによって「こころ」を豊かにし、「共感」する「こころ」を育ててきた。けつして突然「脳内」に「自意識」や「理性」が生まれたのではない。④「協力・分配・共感」という基盤があつてこそ「人間」が形成されてきたのである。

個々には「障害」のために「自意識」や「意識」が育たないこともあるであろう。だが重い障害のある人とのあいだで、人類が経験してきた「協力・分配」がなされ、「共感」することこそ人間の特質があり、協力する人も、される人も人間として存在し、それぞれに人間的な「こころ」が成熟していくのである。

身体器官は、心臓・肺臓・肝臓・腎臓・脾臓・膵臓・胃腸・膀胱などの内臓、目・耳・鼻・舌などの感覚器官、外界から隔て守り感覚機能も有する皮膚、身体を支え運動をつかさどる骨・筋・関節、それに生殖器、口腔内組織、骨髄、血管系、神経系、内分泌系、免疫をつかさどるはたらきなどさまざまな機能があり、それぞれの役割をもつ器官・機能が「ウ」

にはたらくことによつて支えられている。それぞれの器官が総合のなかで独自のほたらきをもっているように、「脳」という器官は身体機能、精神機能を「統合する」という独自の役割をもっている。それはけつして他の器官やほたらきを「支配」している「中枢」器官ではなく、「統合」するという役割を有しているのである。

器官的には「脳」が、そして機能的には「自意識」や「理性」があるから人間ということではなく、人間の各器官が総合的に「エ」にはたらくことが大事であり、それぞれの臓器、器官がその役割を果たしているように、脳は「統合する」という役割を分担しているということである。脳を含む個々の器官のほたらきには個体差があるのはいうまでもないが、それら全体によつて人間なのである。「からだ」も「こころ」も、そして「脳」も含めて、「いのち」であり、「人間」であり、そのことが大事なのである。

高谷 清『重い障害を生きるということ』岩波新書（一部省略）

※ 以下、記述問題については、特に指示のない限り句読点も一字として数えます。冒頭の一字下げは不要です。解答は、問題番号のある解答欄に書きなさい。

マ29 空欄 ① に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- [1] 外界とつながっている
- [2] 意識も発展している
- [3] 共感する力がある
- [4] 精神機能も統合している

マ30 傍線部②「彼」とは誰か。その答えとして不適切なものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- [1] 外界の影響を受ける人
- [2] 重い障害がある人
- [3] こころにはほたらきかけている他者
- [4] 「自己」の持ち主

マ31 空欄 **③** に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄を
チェックしなさい。

- [1] 自己は変化しない
- [2] 意識は不要である
- [3] 人間として存在していない
- [4] 脳がすべてである

マ32 文中の「ア」から「エ」に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいもの
を以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- | | | | |
|-------------|---------|---------|---------|
| [1] 「ア」 一般的 | 「イ」 部分的 | 「ウ」 常識的 | 「エ」 標準的 |
| [2] 「ア」 標準的 | 「イ」 拡散的 | 「ウ」 意図的 | 「エ」 機械的 |
| [3] 「ア」 基本的 | 「イ」 画一的 | 「ウ」 部分的 | 「エ」 合理的 |
| [4] 「ア」 根源的 | 「イ」 弛緩的 | 「ウ」 感覚的 | 「エ」 全体的 |
| [5] 「ア」 原初的 | 「イ」 反射的 | 「ウ」 総合的 | 「エ」 有機的 |

記16 空欄 **A** と空欄 **B** には、それぞれ異なる二字熟語が入るが、それぞれ適切
な二字熟語を本文中から見つけて書きなさい。

記17 傍線部 a、c の次のひらがなを、それぞれ文脈にふさわしい漢字に直しなさい。

- a そんなしょう b けいか c かじょう

記18 傍線部④『協力・分配・共感』という基盤があつてこそ『人間』が形成されてきた
とあるが筆者はなぜそのように考えたか、理由を一〇文字以上、二〇文字以下の一文で答
えなさい。

記19 本文全体の要旨を八〇字以上、九〇字以下の文で答えなさい。